



# 読書活動日本一の まちづくりニュースVOL.5

編集：教育委員会読書推進課  
発行：平成26年4月1日

## 出水市は家読(うちどく)をすすめています！

読書によるひとづくり ふるさとづくりのまち 出水市  
家読で広がる地域・家族のコミュニケーション

### ❖ 出水市読書活動推進計画第二次の柱・・・家読(うちどく)



「家読(うちどく)20分間運動」の推進



ブックスタートキャラクターデザイン 出水商業高等学校

「家読(うちどく)」とは家庭読書の略語で「家族ふれあい読書」を意味しています。

この「家読(うちどく)」は、「朝読」の家庭版として考えられたものです。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」をすることを目的としています。

「家読(うちどく)」のやり方は、家族で本を読んでお話をすることです。これといった決まりはありません。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本についてお話していただくことによって、きっと楽しい時間を過ごしていただけることと思います。

「家読(うちどく)」の一つの方法として、出水市が提案しているのが、「絵本の読み聞かせ」です。



人は、一生に3度絵本に出会うのだそうです。1度目は幼い時、2度目は親になったとき、3度目は人生の後半になったとき。同じ絵本でも、読む人のその時の心の持ち方で印象が変わってくるものです。読み返す度に新鮮な感動が生まれ、親から子へ、孫へと読み継がれていくことによって同じ本を共有する喜びが生まれ、そこから家族の文化が生まれてくるのかもしれない。

乳幼児などの小さなお子さんのいない家庭では、「絵本の読み聞かせ」に初めは抵抗を感じられるかもしれませんが、まずは「思い出の絵本」から読んでみませんか？その本がいつか家族の「宝の一冊」になることもあります。

また、地域(自治会等)を大きな家庭と考え、行事や会合の際に互いに「読み聞かせ」をすることもひとつの「家読(うちどく)」の方法です。「絵本から始まるコミュニケーション」・・・推奨しています。

### ❖ “いつでも どこでも 本といっしょに” 「おはなし玉手箱」



「地域子ども会読書の集い」と称して地域の公民館に、読書ボランティアと読書推進課の職員が出向き、出前の「読み聞かせ会」を行ってきました。名称に、「子ども会」とうたっているため、「子ども会だけが対象」と思われていたため今回、より多くの団体の方に利用していただけるようにと、名称を変更しました。

何が出てくるかわからない「玉手箱」ということで・・・「**おはなし玉手箱**」と命名しました。多くの方々と出会い、楽しい時間を過ごしたいと考えています。

- ◎ 読書ボランティア団体は、「そらいろのたね」、「虹色のゆめ」、「紙ふうせん」の方々です。開催日時は、できる限り希望に合わせて伺います。所要時間は、1時間程度です。絵本の読み聞かせやパネルシアター、ブラックシアター、ゲームなど盛りだくさんの内容です。

子ども会、自治会、老人会などの行事の一つとして申し込んでください。  
**いつでも どこでも 本といっしょに** 出かけて行きます。

お申込は、出水市教育委員会読書推進課(電話63-4121直通)まで!!